

実践例「学校・学級経営の深化・充実」

課題2 ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る

I 学校名 鶴居村立下幌呂小学校【釧路管内】

II 研究の概要

1 研究主題 令和の下幌呂型学校教育の創造

～小規模校における個別最適な学び、協働的な学びを通して～

2 研究仮説・内容

① 仮説1…ICTの効果的な利活用

教師が教科の特性に応じて、ICTの活用場面を見極め、積極的に活用していくことを通して、児童は新たな課題解決や表現方法を獲得することができるだろう。

- ・端末活用に係わる技能一覧をもとにした意図的・計画的な指導計画（教科横断的視点）

- ・学習指導要領の趣旨に基づいた指導計画（教科の特性に応じた視点）

- ・端末活用事例の収集と共有（実践の蓄積）

② 仮説2…個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る単元構想

教師が、児童の見取りに基づき、個での追究場面、集団で学び合う場面、教材の工夫、場の設定、ICT活用などを適切に位置付けることを通して、児童は、主体的に「わかる」「できる」喜びを実感し、自己調整しながら学びを進めていくことができるだろう。

- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた単元計画

- ・各教科で育む資質・能力⇒単元の目標・評価規準の明確化

- ・学習の個性化に向けた「指導の個別化」「協働的な学び」の在り方の希求

③ 仮説3…振り返り活動の充実

教師が、単元の中で振り返り活動を適切に位置付けることを通して、児童は、自己の学びや学び方を振り返り、自覚し、次なる学びへの見通しや意欲をもち、主体的に学びに向かう態度を育むことができるだろう。

- ・振り返り活動の充実

- ・ICTを活用した振り返りの蓄積 等

III 実践

1・第1学年による単式授業

国語科 単元名「おはなしはっぴょうかいをしよう」

教材名「きこえてきたよ。こんなことば」

2・第3学年・第4学年による複式授業

第3学年 理科 単元名「じしゃくのふしき」

第4学年 理科 単元名「とじこめた空気や水」

※鶴居村では全ての小中学校において9年間でどのようなICT活用能力を身につけさせるのか系統一覧表にまとめ、本実践もそれを十分意識して計画したものとなっていた。